

第七十七回毎日書道展を終えて

残暑お見舞い申し上げます。

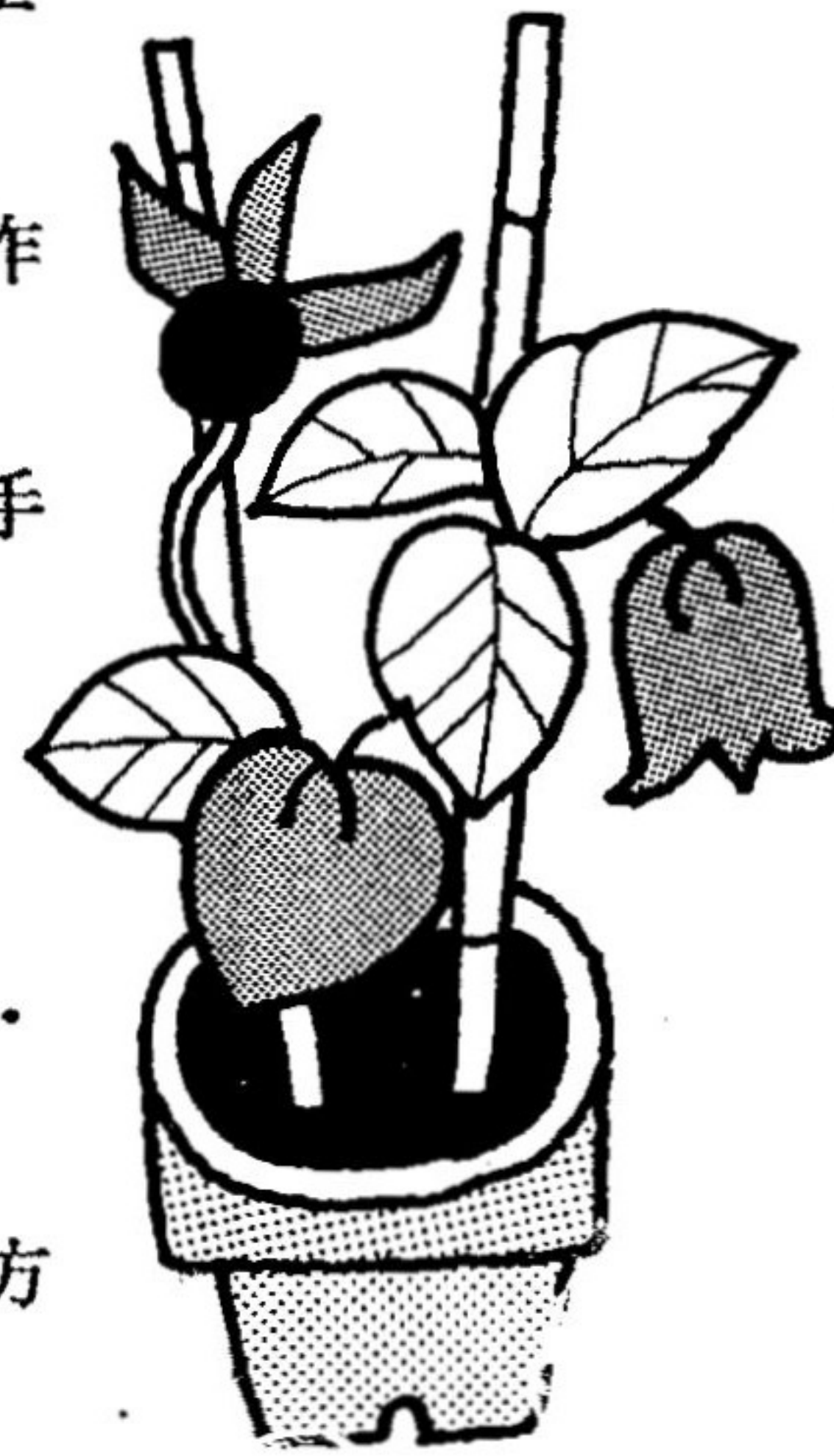
平素より 松雲書道会の会長及び先生を始めとして、会員の皆様には、一方ならずお世話になっており、厚く御礼申し上げます。

さて、三月から作品制作に取り掛かりましたが、今回初めて挑戦する「四行」の作品には、難しい字が多くあり、また私の力量不足の所為も在って、当初から悩んだり迷ったりの連続でした。

それでも、お手本の美しさと（お手本に選んで下さいました）原典の高邁な内容、そして格調高い詩文に魅かれたこと、それに何よりも先生方のご指導を頂いたお陰で、どうにか書き続けることが出来ました。又、会員の皆様からのご助言に随分と助けて頂きました。ここに改めまして、会長先生、秀月先生、会員の皆様に深謝申し上げます。

七月十二日は、蒸し暑い中での「東京ツアー」でしたが、皆様と参加させて頂けたことも有難く思っております。ツアーを主催、運営され、引率して下さいました会長先生、理事の皆様、そして役員の方々のご尽力に、末筆ながら心から御礼申し上げます。

今後も自分なりの努力を続けて行く積もりでおります。何卒ご指導ご鞭撻のほど謹んでお願い申し上げます。



令和八年七月二日(木)～七月五日(日)までの四日間新潟市新津美術館一階市民ギャラリーにおいて開催されました。前半二日は雨、後半二日は晴れという天気でしたが予想を上回る7百人以上のお客様にご来場頂きました。

一般部・学生部あわせての年に一回の発表の場です。皆一様により良い作品をと先生のご指導のもと頑張りました。

学生部は小・中学生が半紙作品、高校生が条幅作品。企画作品は短冊に自分の名前を書きました。名前を短冊に大きく書いて名前の大事さを理解してもらう狙いがあるそうです。色とりどりの短冊が会場を明るくして、来場の方々も楽しく眺めていました。

一般部は大きさも書風も様々で楷書・行草書・隸書・臨書・近代詩・仮名・絵手紙…本当にバラエティーに富んでいて見飽きることがありません。企画作品は会長・副会長・選拔者二二名の臨書作品です。書の基本といわれる臨書ですが、半紙の大きさでもとても難しかったです。先生曰くお手本の見方がいっそう緻密になるはずだそうです。精進したいと思います。

そして来場の方々が一番見入っていたのは、会長の四点の掛け軸の作品です。同じ詩文の楷書・行書・行草書・隸書で私達会員の作品を作るうえの参考にと今回書かれたそうです。いろんな見方を感じもっと自由にとらわれずに書に向き合っていたらと感じました。

終盤には親睦会も開かれ、七名の方に奨励賞が授与されました。うち三名は学生部から続いているフレッシュな方です。また毎日展の三名の入賞者が紹介され、それぞれ感想を述べられ大いに盛り上がりました。

最終日には会長から一般部の全作品の批評をいただきました。今後の作品にぜひ生かしていきたいと思います。そして後片付けまで無事終了することができました。

最後になりますが期間中は県内外から多くの方にご来場いただきました。また多数の祝電やお花もいただきました。感謝申し上げます。



本田 清秀